

## 第2次情報セキュリティ基本計画に関する意見

井川

次期の基本計画で検討すべき課題について、私見を述べます。

## ■NISCの存在感が薄い

NISCは黒子役なのだろうが、ほとんどの国民はその存在を知らないのではないか。無闇に目立つ必要はないが、存在感を示すことで、安心感の醸成、抑止力につながるのではないか。(後者については、目立ち過ぎると、攻撃の対象となり、逆効果になるという見方もできるが、ステルス状態でいいとは思えない。存在感に能力、実体が伴えばいい)

存在を知らしめるには、日常の情報発信が大切になる。ここでいう情報発信は、メルマガのような簡易なものではない。情報セキュリティの脅威、技術が日夜、変貌していることを考慮して、国内外の情報をいち早く収集し、政府内の関係部局と連携して対応策を提言する、あるいは対策を立案して速やかに対応する、という意味の情報発信力である。

こうした体制の構築を計画の中に入れてはどうだろうか。

## ■個人の役割を強調すべきではないか

前回は提案させていただいた点だが、やはり個人の役割をもっと強調すべきではないか。

リテラシーという点も重要だが、同時に、情報通信技術の利便性を享受するための自覚、という観点からもう少し踏み込んでおくべきではないか。

情報通信技術は難しいから、誰か他人が、政府が、企業が安全にしてほしい、という他人任せで対策は進まない。セキュリティ対策のコストは上昇し、すべて他人任せの人のセキュリティを確保するために利便性を欠くものになる、という危険まである。

むろん、個人に何を求めるか、もう少し論議は必要だ。

これに関連して、自助、共助、公助の視点は、情報セキュリティの分野にも入れ込むべきではないか。地方自治体、中小企業などへの支援方策を考える意味でも、この論議は不可欠。

## ■研究、産業の活性化の視点

この視点が具体的でなくては、人材育成ができない。企業も乗ってこない、のではないか。

以上